

# ちまたでの書道教室

第7回

表現する楽しさを味わう——中嶋宏行の書道教室「書に遊ぶ」

かつてはたくさんあった町の書道教室。現在のお教室事情はどうなっているのか?

今、巷で噂の書道教室をリサーチし、人気の秘密に迫ります!

文／石渡玲子(フリーライター)



①中嶋宏行の書道教室「書に遊ぶ」千葉教室のみなさんと、中嶋宏行先生(前列中央) ②千葉教室での稽古の様子



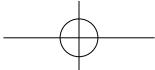
書家・中嶋宏行さんの書道教室には、「書に遊ぶ」というキャッチフレーズがつく。「パソコンやケータイが日常化し、筆で書くことが縁遠くなつた今だからこそ書に遊ぶ楽しみを伝えたい」という意味が込められている。

もともと書家としてイタリア、フランスなど海外で個展やパフォーマンスを続けてきた中嶋さんが、教室を始めるようになったのは今から10年前。個展を見に来た人から「お教室はやっていいのですか?」と声をかけられたのがきっかけだという。「書の型を教えるだけではなく、その先にある世界、書表現の醍醐味をなんとか教室で伝えられれば」と考えて開講した。現在、千葉と銀座の二カ所に教室があり、基礎から創作まで幅広く指導している。

カリキュラムは、初心者は入門編から入り、経験者は発展編として、臨書コース、創作コース、かなコース、大字コース(千葉教室のみ)の中からコースを選ぶことができる。教室に集まつて来る生徒さんは、中嶋さんの個展やホームページで作品を見て魅かれて来た人が多い。とはいっても、いきなり先生のような創作をすることは難しいので、たいていは、まず臨書コースで古典の勉強をする。中嶋さんの臨書のお手本を見ると、筆を入れる角度、間を空けるところなど、こと細かくアドバイスが書かれている。「古典のことがすばらしい。ということを理論的に説明して、頭で理解してもらうのがいい」という考え方で成果をあげている。

臨書コースで学んだ後は、創作コースで表情のある字に挑戦。そして、また臨





9-10古民家「一櫻庵」にて、生徒さんの作品展「書の室礼展」を開催したときの様子  
(写真⑨撮影=外山由梨佳)

書コースで古典を練習をして…、と、コースを行き来しながらレベルアップしていく。「たお手本に倣って書くだけではなく、創作をしたり、いろいろな体験ができるのが楽しい」(石井さん、織田さん、「級を目指す書道でないところがいい」(紅谷さん)と、生徒さんたち。従来の書道教室の枠を超えて、自由に学べる事が魅力のようだ。

2013年の秋には、教室開講10周年を記念して、千葉教室と銀座教室合同の作品展を開催した。会場は、杉並区にある登録有形文化財の古民家「一櫻庵」。

「紅谷さん」と、生徒さんたち。従来の書道教室の枠を超えて、自由に学べる事が魅力のようだ。

「書の室礼展」と題し、ギャラリーとはひと味違った空間で、およそ30人の生徒が創作書を披露した。生徒は自分で題材を決めるところから始め、先生のアドバイスをもらいながら書きたいものを一から構築していく。

創作をする過程で、「期限ぎりぎりに一番大きな字の配置が、ふとひらめいたときの感動」(高島さん)、「インスピレーションがひょっとと降りてくる不思議感覚」(伊東さん)、「自分の思いを超えた作品ができたときの楽しさ」(堀本さん)など、予期せぬ楽しさを味わえた人も多かった。



辻円さんもインターネットで見た先生の書が気になって、8年間、東京から千葉の教室まで通っている。臨書、創作などいろいろなコースを経験して、今は「かな」を勉強中。「教室ではみんながいろんなことをやっていて、他の人が先に進んでしまって焦るというようなこともないし、自由に淡淡とやらせてもらえるのがとてもいいです」と語る。



小泉滋さんは、教室に通い始めて9年になる。「中嶋先生は、どんな書体でも自由自在にお書きになる。カリスマ性があるところも魅力です」と話す。ご自身で字を調べて創作をするようになってからは、「見学会を見に行っても、ああ、こういう書き方もあるんだ、と他の人の書を見るのが楽しくなりました」と、語ってくれた。



「インターネットで先生の作品を見つけて、すぐに習いたい!と思いました」という葵清蓮さん。作品展では、歌舞伎の演目「蝶の道行」を題材に創作をした(写真⑨上)。先生のアドバイスで淡墨と濃墨、両方を使ったことで奥行感が出て、大満足な仕上がりとなった。葵さんは書家としてワークショップを開いたり、ご自身のブログで作品を発表している。

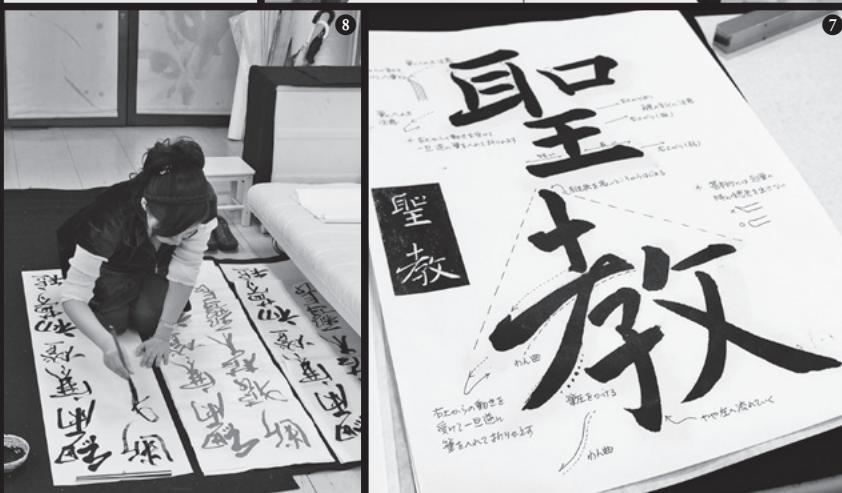


③-④銀座教室はおしゃれな雰囲気 ⑤千葉教室は先生の作品や大きな筆があって、創作意欲が沸く ⑥銀座教室のみなさんと中嶋先生 ⑦臨書のお手本は細かいアドバイスが書きこまれている ⑧千葉教室で条幅の課題に取り組む

### イタリア教室のみなさんも書を楽しんでいます!

イタリアのミラノにアトリエを構える中嶋さんは、イタリア教室も開講している。年に数回プライベートレッスンやワークショップを行っている。「ラテン系の人たちは、書くときに手首を使いたがるんです。速いストロークが好きで、ゆっくり書くのが苦手なんですね。体動が正しいと線もよくなるので、実際にやって見せて理解してもらっています」と、中嶋さん。イタリア教室の詳細は、shodo.itのwebサイトにある。

<http://www.shodo.it/>



[問い合わせ]▶▶ 中嶋宏行の書道教室「書に遊ぶ」に関するお問い合わせは、メール▶▶ [nakajima@sho-jp.com](mailto:nakajima@sho-jp.com) 教室案内▶▶ <http://school.sho-jp.com> 中嶋宏行ホームページ▶▶ <http://www.sho-jp.com/>